NRI学生小論文コンテスト
受賞OB・OGのいま — Part 2

受賞はスタート、自らアクション！

2006年に始まり、今回で10回めを迎えた
「NRI学生小論文コンテスト」。
本冊子40ページ「受賞OB・OGのいま —Part1」に続き、
受賞OB・OGの近況をご紹介します！

大学でふくろうの生態系を研究中

草間 由紀子 さん ｜ 第4回（2009年）【高校生の部】特別審査委員賞受賞
論文タイトル：長野モデルから日本モデルへ
応募当時：長野県長野高等学校1年

大学は理工学部に進み、現在3年生で、ふくろうの生態系の研究をしています。表彰式の当日、特別審査委員の最相さんとお話しし、将来の仕事についていろいろ助言をいただきました。後日、最相さんから取材で関わったNHKのドキュメンタリー番組を紹介していただき、その番組を見て、生態系をもっと学ぶ必要があると思い、現在の進路を決めました。受賞は自分にとって大きな分岐点だったと思っています。

山形で地域活性化の活動をしています

山本 泰弘 さん ｜ 第7回（2012年）【大学生の部】大賞受賞
論文タイトル：政経社会系教育重点校「スーパーソーシャルハイスクール」
応募当時：京都大学大学院 地球環境学舎 修士課程2年

2015年春から地元・山形県で県の職員となり、現在は税務関係の部署にいます。仕事以外の時間では、地域に積極的に出て行って、地元の活性化のために活動している研究者や学生とつながってさまざまなプロジェクトや研究活動に携わったり、文章を書いて発表するなどしています。このコンテストでの受賞はゴールではなく、そこがスタートとなって今の活動につながってきていると感じています。

海外の大学で創薬研究、日本ではサイエンスバーの経営に参画

石原 純 さん ｜ 第8回（2013年）【大学生の部】優秀賞受賞
論文タイトル：先端医療技術が達成するピンピンコロリ（PPK）社会
応募当時：東京大学大学院 新領域創成科学研究科 博士課程3年

現在の職業は2つあり、1つは海外の大学の研究室で、博士研究員として創薬の研究をしています。これまで1年半スイスにいて、2016年3月からはアメリカのシカゴ大学に移る予定です。もう1つの仕事は、サイエンスラウンジ合同会社という会社で、最高技術顧問として『サイエンスバー インキュベータ』というバーの技術面を見ています。論文は書くだけではなく、書いたことを実現するためにアクションを起こすことが大事だと思っています。